

## 地震学のアウトリーチにおける社会のニーズとノイズ

## Needs and Noises of Society in Outreach Programs of Earthquake Science

# 辻 宏道 [1]; 勝俣 啓 [2]; 大木 聖子 [1]

# Hiromichi Tsuji[1]; Kei Katsumata[2]; Satoko Oki[1]

[1] 東大地震研; [2] 東大地震研

[1] ERI, Univ of Tokyo; [2] ERI

<http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/outreach/>

アウトリーチとは、研究開発を行う組織が一般社会に向け、教育・普及・啓発等の働きかけを行うことである。効果的なアウトリーチには、受け手である社会の期待（ニーズ）や、送り手と社会との間に存在する阻害要因（ノイズ）の分析が欠かせない。このため我々は「地震学のアウトリーチにおける社会のニーズとノイズの研究」を2008年より始めている（科研費・基盤研究（C）・課題番号20510170）。

初年度は主にニーズ調査を行うこととし、まず、地震研究所の公開講義聴講者等を対象に、以下のアンケートを行った。無作為抽出による調査ではないため、社会全体の傾向を見るような統計的扱いはできないが、地震に比較的関心が高いと思われるグループの持つニーズを調べる定性的なデータになると考えている。

1. 今まで地震を体験されたことはありますか？  
地震で被害にあった 被害はなかったが、身の危険を感じるほどの揺れを体験した  
身の危険を感じるほどの揺れは体験していない 余り記憶にない
2. あなたは、地震について  
人より詳しいと思う 基本的な知識はある 余り良く知らない
3. あなたが地震関係の研究者に、最も期待されることは何ですか。1つだけお選びください。  
地球に関する科学的な知識の追求  
地震の基礎的な研究（発生メカニズムなど）  
地震の発生予測（長期的な予測、直前予測など）  
地震による揺れや被害の予測  
地震被害の軽減方法の開発  
その他（ ）
4. 次の言葉を耳にされたことはありますか。いくつでもチェックしてください。  
緊急地震速報 長周期地震動 キラーパルス（ 学術用語ではありません）  
ゆっくり地震 アスペリティ ひずみ集中帯  
低周波微動 ブリューム スタグナントスラブ（メガリス）
5. 週刊誌等に、もうすぐ大地震が起こる、といった噂が取り上げられることがありますが、気になりますか？  
気になる どちらかという気になる  
あまり気にならない 気にならない どちらともいえない
6. 現在の地震に関する研究は、社会のために役立っていると思いますか？  
役立っている どちらかという役立っている  
あまり役立っていない 役立っていない どちらともいえない
7. 地震研究所から、どのような情報発信を期待されますか？いくつでもチェックしてください。  
大地震の速報 地震に関する一般的な知識 防災に関する一般的な知識  
地震に関する最新の研究成果 地球に関する最新の研究成果  
その他（ ）
8. その他、地震に関する研究について、ご意見・ご要望があれば、何でもお書きください。

2008年7月30日に行われた公開講義の聴講者にアンケートを行った。回収率は67%で、481人から回答を頂いた。東京近辺に在住の、年輩の男性層が多い集団で、身の危険を感じる揺れを経験した人が30%含まれている。

用語の認知度は、緊急地震速報（98%）、長周期地震動（66%）、低周波微動（61%）、ひずみ集中帯（49%）などであった。これらは公開講義でも説明されておらず、日頃から地震への関心が高い層であることが伺える。低周波微動の割合が高いのはちょっと意外である。

地震研究者への期待を一つだけ選択してもらったところ、地震発生の予測（42%）、地球・地震の基礎研究（28%）、震災軽減方法（21%）、揺れ被害予測（8%）の順となった。地震に関心が高い一般の方は、地震予測の研究を望んでいることが伺える。

週刊誌等の噂が気になる人/どちらかという気になる人（52%）は、気にならない人/あまり気にならない人（45%）よりも多い。一方、地震研究への評価については、役立っている（53%）、どちらかという役立っている（34%）、あ

まり役立っていない／役立っていない(9%)となった。週刊誌等の噂を気になる人と、地震研究が役立っていると思う人の比率は、ほぼ同じである。

自由意見として次のようなものが目についた。

- ・地震があって活断層を知るのではなく、これからどこで起こりうるかを知りたい。
- ・東北地方で続けて大きな地震が発生しているが、何か関連があるのか？又、日本は地震の活動期に入っているのか？
- ・一般の人でも地震予知ができる方法(例えば、動物の観察、天候による等)はないか？
- ・地震雲と実際の地震発生との関連の研究はあるか？
- ・もっと専門家に積極的に世間に向けて発言してほしい。デマや風評が一番怖い。

今後、アンケート結果のクロス分析を進め、地震体験、知識、期待、噂への関心、地震研究の評価などの相関について考察する。また質問項目を再検討した上で、インターネット調査サービスを利用したアンケートを行うことにしており、講演ではこれらの結果も紹介したい。